



2023年2月27日

各 位

会 社 名 株式会社アイロムグループ  
代 表 者 名 代表取締役社長 森 豊隆  
(コード番号 2372 東証プライム)  
問 合 せ 先  
役 職 取締役 CEOオフィスセンター担当  
氏 名 小島 修一  
電 話 03-3264-3148

## 当社子会社による京都大学iPS細胞研究所(CiRA)との センダイウイルスベクターを用いたナীব型iPS細胞作製技術における 独占的な共有者実施契約締結のお知らせ

当社の100%子会社である株式会社IDファーマ(以下、「IDファーマ」という)は、京都大学iPS細胞研究所(以下、「CiRA」という)と共同で当社グループの基盤技術であるセンダイウイルスベクターを用いたナীব型ヒトiPS細胞(※1)を迅速に作製する技術(以下、「本技術」という)を開発し、この度、本技術の独占的な実施に関して共有者実施契約を締結しましたので下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 契約の概要

対象技術	体細胞からのナীব型ヒトiPS細胞製造方法
対象地域	特許の出願がなされたすべての国
契約形態	独占
対価の額	本技術を使用したベクターの販売価額及び当該ベクターを用いたサービスの売上額に対するロイヤリティ

IDファーマは、温度感受性センダイウイルスベクター(※2)を用いた分化細胞から、より優れた多分化能を持つナীব型ヒトiPS細胞を樹立する技術において、研究目的として本技術を使用したベクターの製造、販売及びサービス提供等を独占的に実施するとともに、CiRAに対してはその販売額や売上額に対するロイヤリティを支払います。

#### 2. 契約の意義

本技術により、これまで樹立困難であった細胞種や培養条件からのナীব型ヒトiPS細胞の樹立を可能にするのみならず、新たに開発された温度感受性センダイウイルスベクターを用いることで、ナীব型ヒトiPS細胞樹立後に不要なウイルスベクターの迅速かつ簡便な除去が可能になりました。

近年、ナীব型ヒト多能性幹細胞を用いたヒト初期胚の研究が進んでおり、より優れた多分化能を持つナীব型ヒトiPS細胞を作製する技術は、これらの創薬研究、再生・細胞治療製品等の開発に貢献することが期待されます。

なお、本技術に関する研究成果が、2022年10月18日に Cell Reports Methods に掲載され、CiRA および当社のニュースリリースにて公開しています。

CiRA ニュースリリース：

<https://www.cira.kyoto-u.ac.jp/j/pressrelease/news/221018-000000.html>

当社ニュースリリース：

[https://www.iromgroup.co.jp/wp-content/uploads/2022/10/20221018\\_1\\_193744.pdf](https://www.iromgroup.co.jp/wp-content/uploads/2022/10/20221018_1_193744.pdf)

### 3. 今後の見通し

本件による2023年3月期の業績への影響は軽微ですが、本技術は新たな創薬研究、再生・細胞治療製品等の開発に貢献することが期待されるものであり、センダイウイルスベクターを用いた新たな事業機会を創出し、中長期的な当社の業績に寄与するものと考えております。

#### ※1. ナイーブ型ヒトiPS細胞

着床前のヒト胚に類似した性質を有する多能性幹細胞のこと。2014年に初めて樹立が報告されています。

#### ※2. 温度感受性センダイウイルスベクター

本研究におけるセンダイウイルスベクターは改変を加えており、高温培養を経ることで細胞内から迅速に除去される性質を持っています。

以 上